

# 高齢化の状況等について

## 1. 人口構造の変化と潜在的な介護ニーズ

- ① 人口の推移及び推計
- ② 一人暮らし高齢者の増加
- ③ 高齢者世帯の構成の変化
- ④ 年齢別人口及び認定状況

## 2. 介護保険の運営状況

### (1) サービスの利用状況

- ① 認定率の推移
- ② 給付費と認定者数の推移
- ③ 第1号被保険者1人あたりの給付月額
- ④ 第1号被保険者1人あたりの給付月額の内容比較

### (2) 介護保険事業特別会計の運営状況

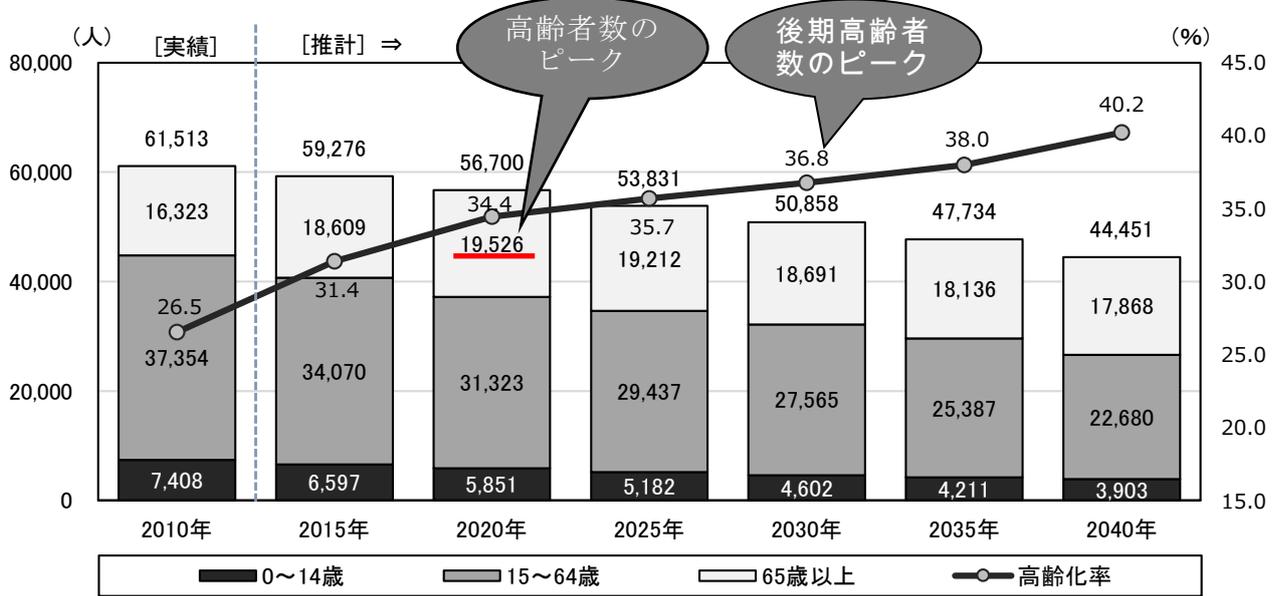
- ① 第1号被保険者の介護保険料
- ② 計画上のサービス給付費総額と実績額
- ③ 介護給付費のサービス別構成割合

## 3. その他

- ① 認知症の人の将来推計（徳島県 p9）
- ② 介護職員の状況（徳島県 p10-11）
- ③ 運転免許返納者数等の状況
- ④ 地域座談会における主な困りごとに関する意見

# 1. 人口構造の変化と潜在的な介護ニーズ

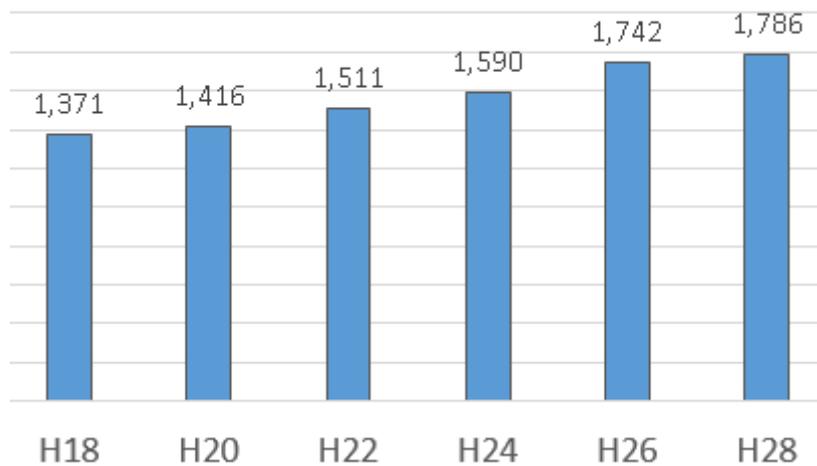
## ① 人口の推移及び推計（本市）



資料：鳴門市人口ビジョン（推計値は国立社会保障・人口問題研究所）

少子高齢化による人口減少が進んでいます。生産年齢人口の減少に対し、高齢者数は依然増加し続けており、2020年頃にピークを迎え、以降、減少に転じると予測されていますが、高齢化率はその後も上昇し続ける見込みです。

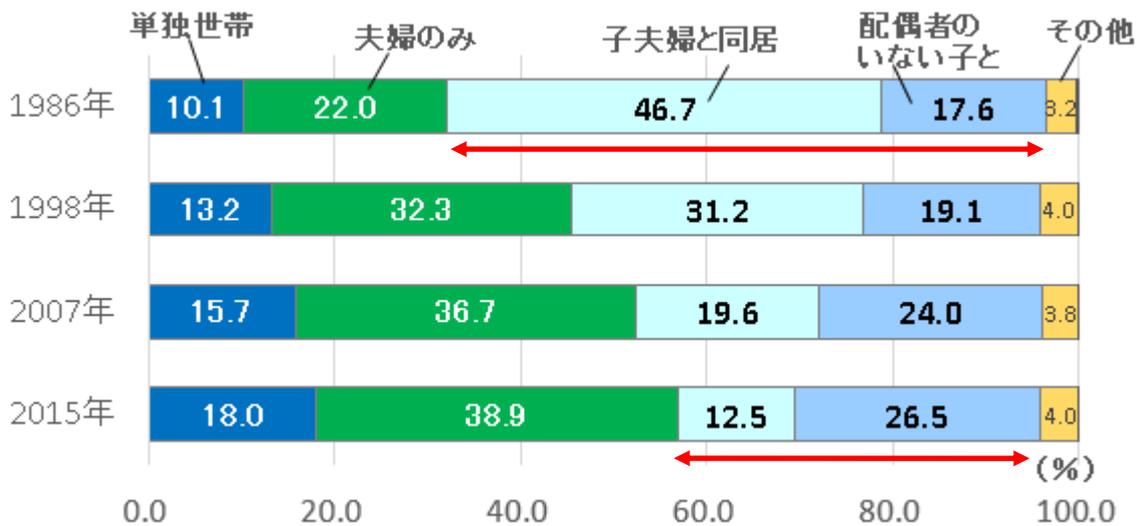
## ② 一人暮らし高齢者の増加（本市）



資料：民生委員児童委員実態調査

一人暮らし高齢者は増加を続けており、全高齢者のうち一人暮らし高齢者の占める割合は、約9%前後で推移しています。

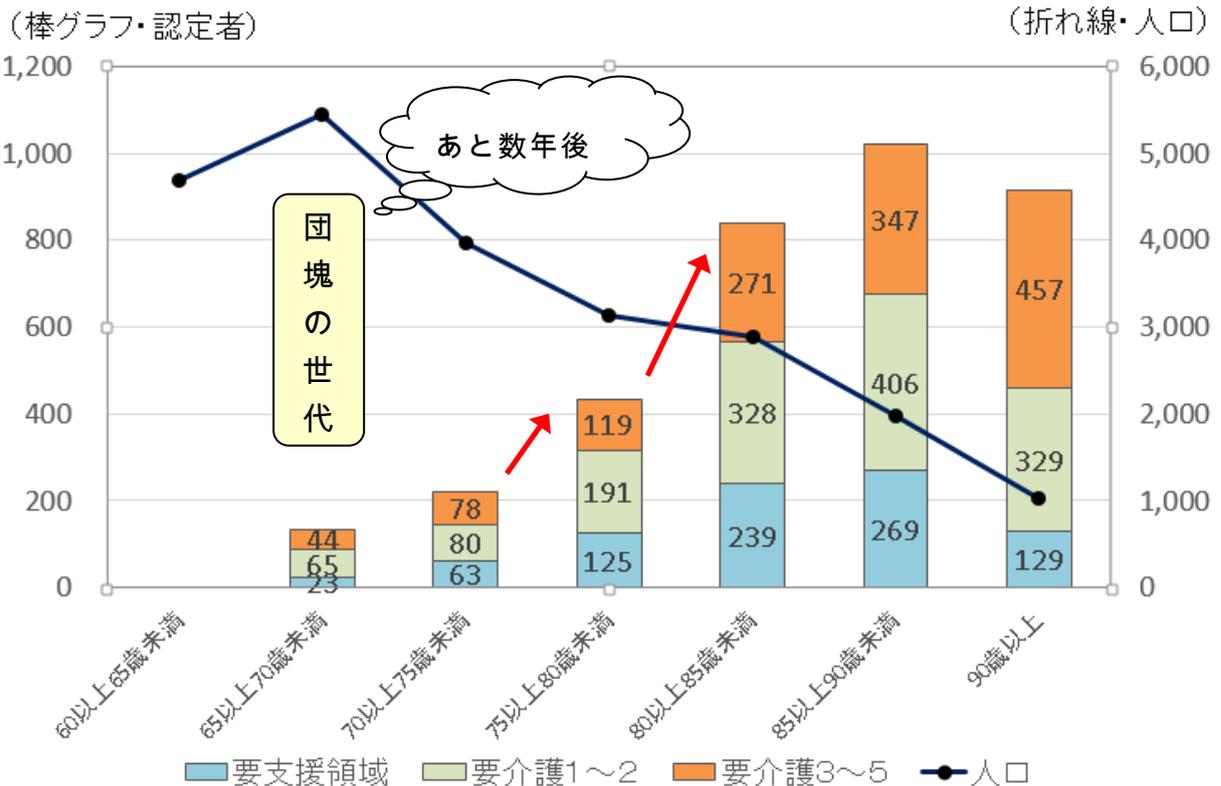
### ③ 高齢者世帯の構成の変化（全国）



資料：国民生活基礎調査（厚生労働省）

従前、一般的であった子ども夫婦との同居は少なくなり、高齢者のいる世帯に占める高齢者のみ世帯の割合は、約6割に達しています。

### ④ 年齢別人口及び認定状況

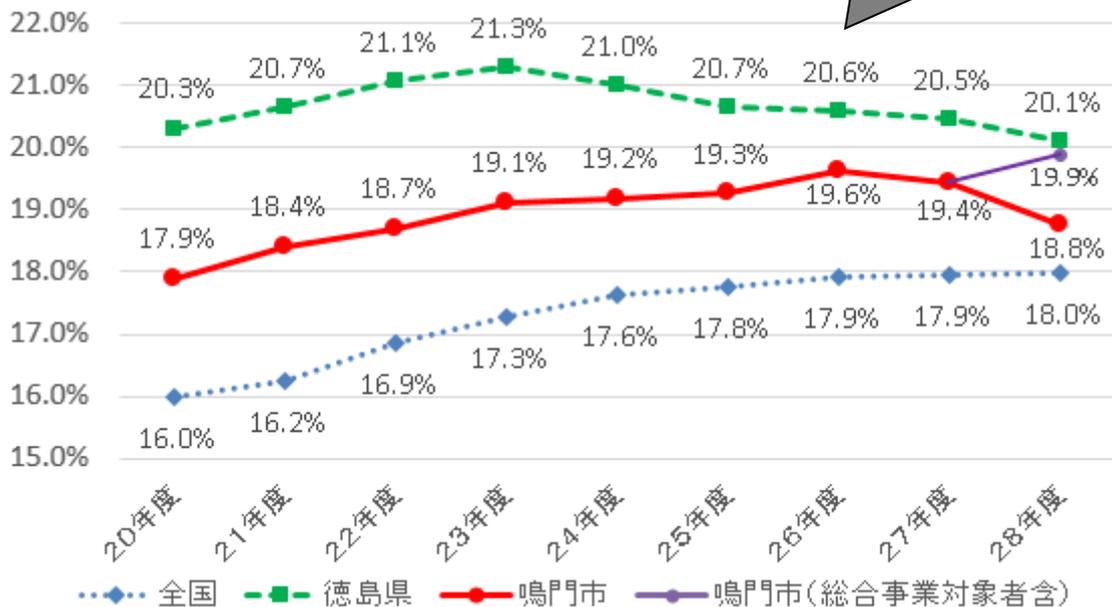


75歳以降、高齢化による身体能力の低下に伴い、認定者数が急増する傾向にあります。団塊の世代が後期高齢者にさしかかる平成34年度あたりから、認定者の大幅な増加が想定されます。

## 2. 介護保険の運営状況

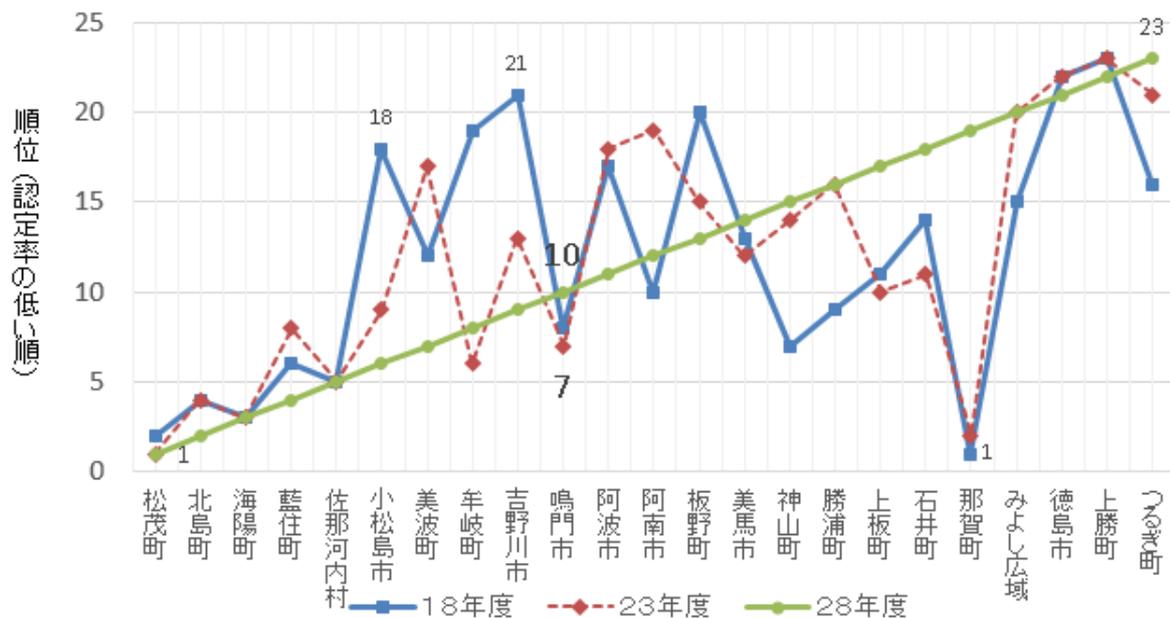
### (1) サービスの利用状況

#### ① 認定率の推移（各年度末）



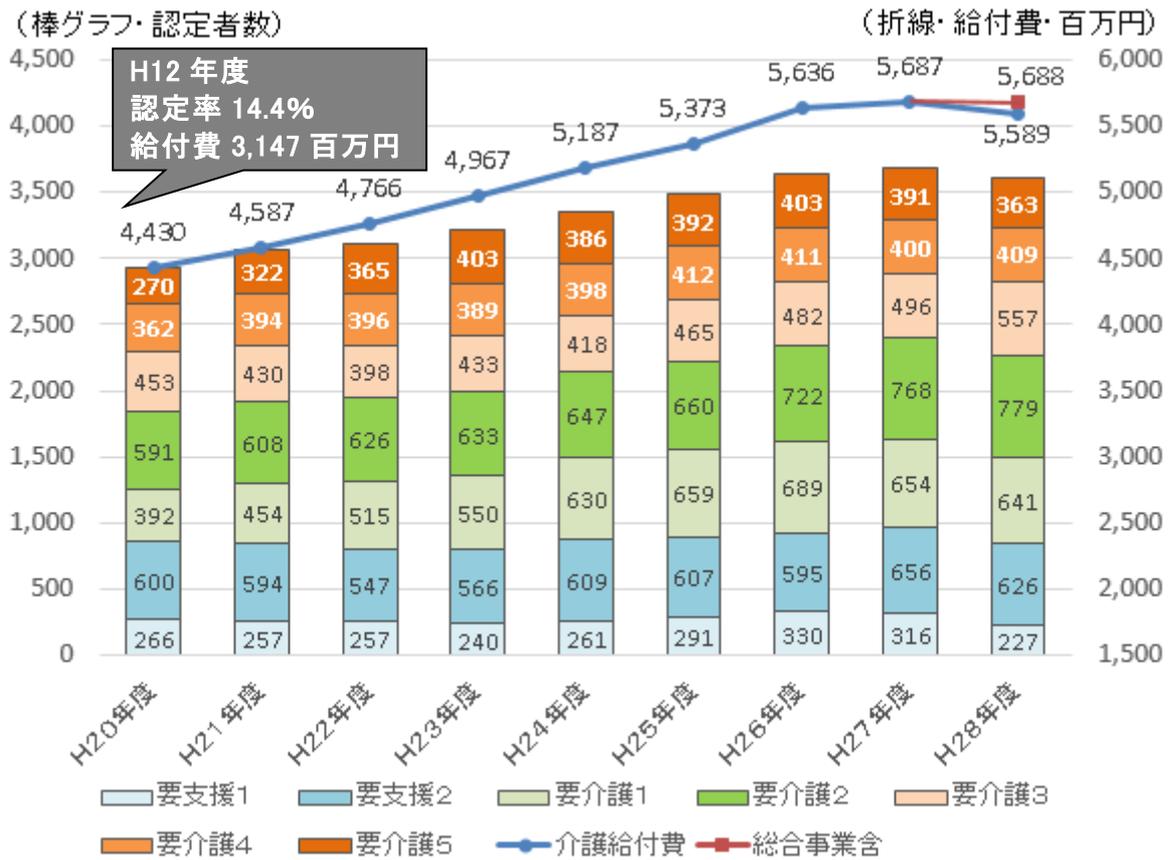
平成 28 年度末時点の認定率は 18.8% で、県よりは低く、全国より高い状況が続いています（県内では、下から 10 番目の高さ）。後期高齢者の割合増加に伴い、増加基調ですが、本市では、総合事業の開始に伴い、直近では減少しています。

#### ※ 県内保険者別の認定率の順位の変動



人口構造上の要因もあり、上位・下位の順位はあまり変化していませんが、保険者毎の取り組み等による変動は見られます。

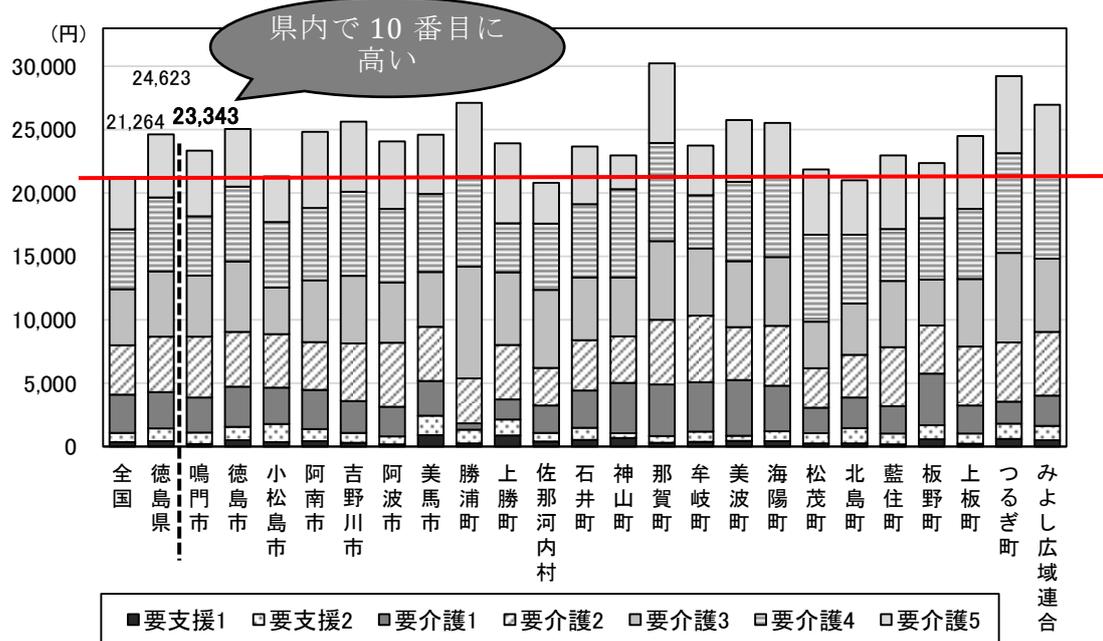
## ② 給付費と認定者数の推移（本市）



§ 認定者数は各年度末の人数

認定者数の増加に伴い、給付費も増加傾向が続いています。H27年度は報酬単価の改定（△2.27%）、平成28年度は総合事業への移行（単価の低い緩和型サービスの開始）等があり、直近は、比較的落ち着いた動きとなっています。

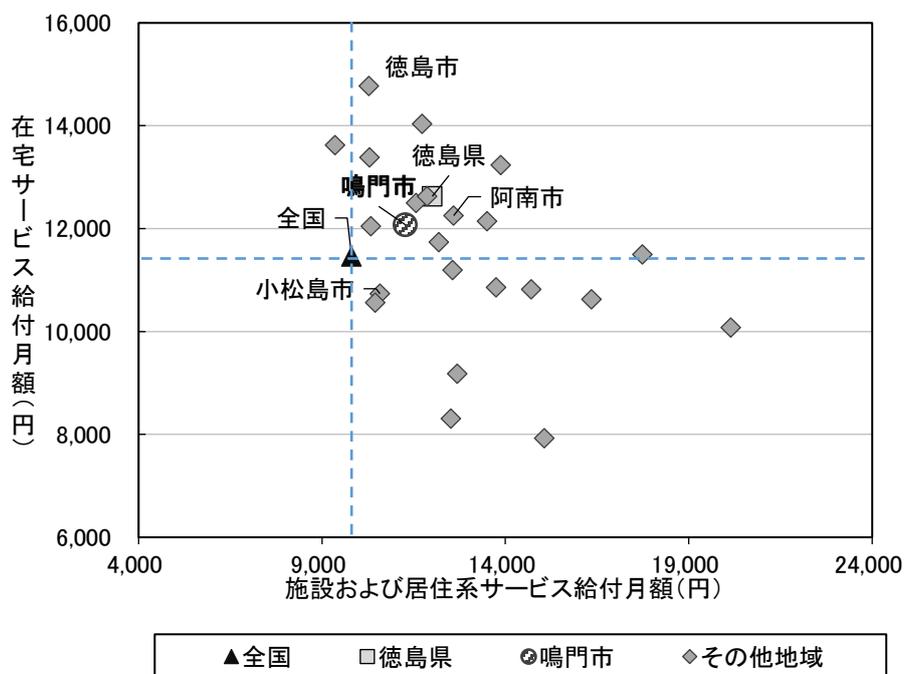
### ③ 第1号被保険者1人あたりの給付月額



資料：見える化システム（厚生労働省）

2016年（平成28年）時点の第1号被保険者1人あたり給付月額は23,343円で、徳島県よりは低いです。全国より高くなっており、県内では23保険者中10番目の高さになっています。

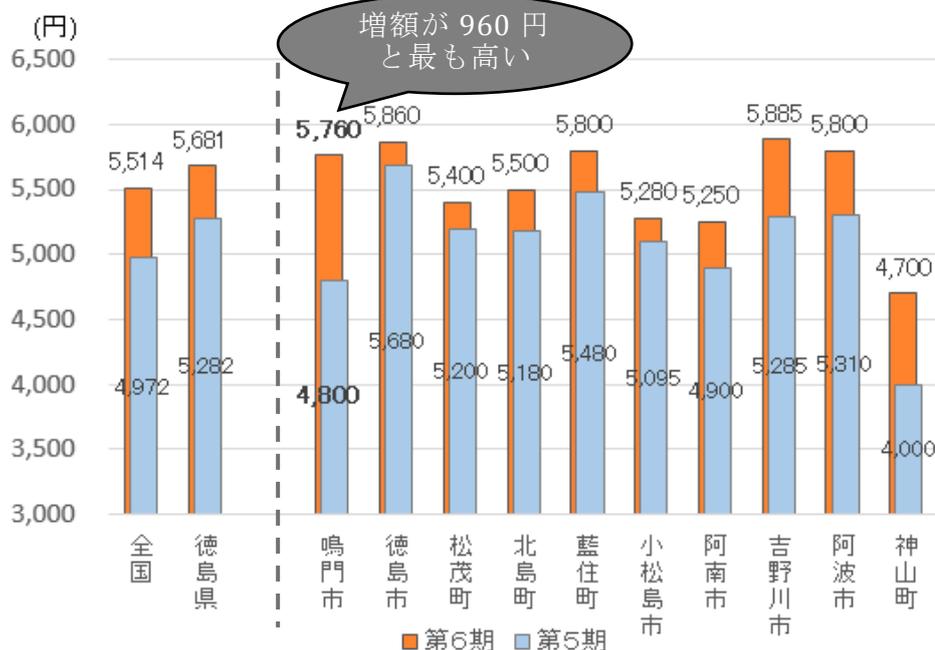
### ④ 第1号被保険者1人あたりの給付月額の内訳比較



2016年（平成28年）時点において、在宅サービス・施設および居住系サービスともに、全国よりは高く、徳島県よりは低い給付額となっています。在宅サービスは県内で10番目に高くなっています。（10/23）

## (2) 介護保険事業特別会計の運営状況

### ① 第1号被保険者の介護保険料（基準額）



保険料は県内で11番目の高さ(12/23)ですが、第5期から第6期にかけての増減額は、県内で最も高くなっています。(那賀町も同額増)

国では、このままで推移すると、平成32年度には6,771円、平成37年度には8,165円に達すると試算しています。

### ② 計画上のサービス給付費総額と実績額

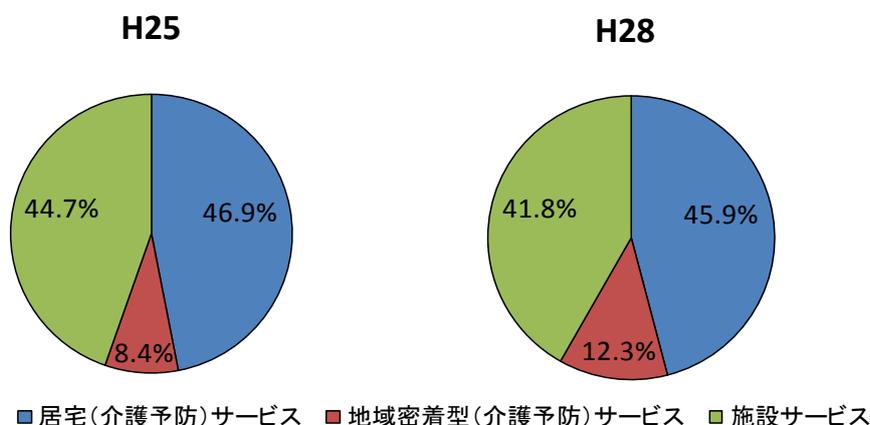


§ 29年度の実績額は予算額を仮置き

第6期計画におけるサービス給付費総額（給付費に総合事業や地域支援事業に関する費用まで加えたもの）の見込みと実績額を比較すると、平成27年度は14百万円、平成28年度は91百万円下回っており、現時点の推計では、期間中全体で176百万円程度下回る見込みです。(第5期では718百万円超過)

### ③介護給付費のサービス別構成割合

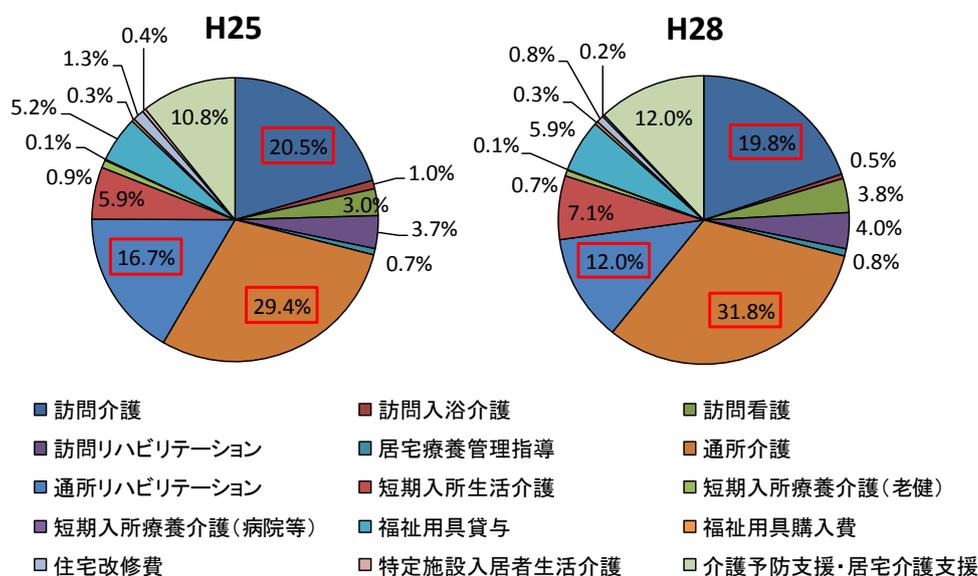
#### a. 居宅・地域密着・施設サービス構成割合



介護（介護予防）サービスの給付費の構成割合は、居宅（介護予防）サービスが45.9%で最も高く、次いで施設サービス、地域密着型（介護予防）サービスとなります。

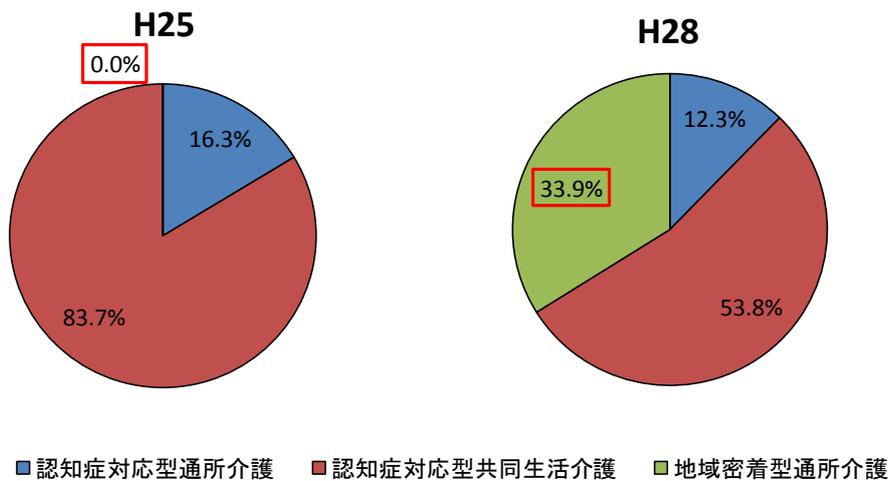
なお、地域密着型（介護予防）サービスが、8.4%（H25）から12.3%（H28）に増加しており、施設サービスが44.7%（H25）から41.8%（H28）に低下しています。

#### b. 居宅（介護予防）サービス給付費の構成割合



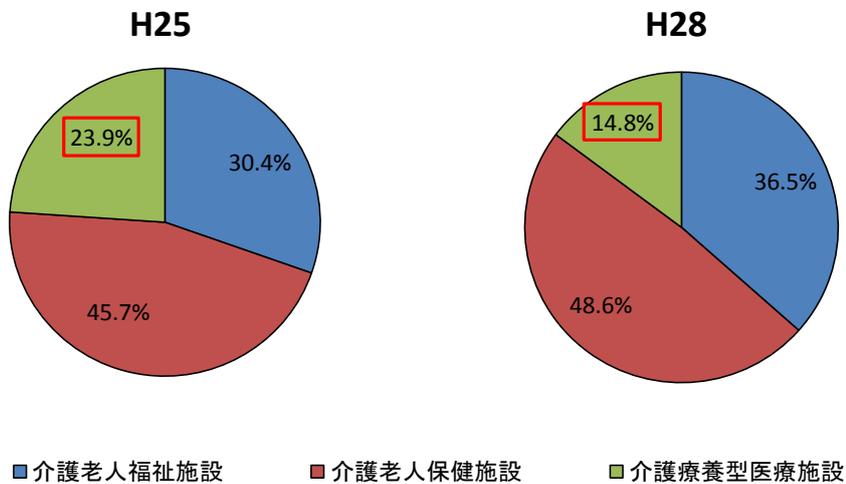
居宅（介護予防）サービスの給付費の構成割合は、通所介護が最も高く、次いで訪問介護、訪問リハビリテーション（H28は介護予防支援・居宅介護支援が同じ値）の順となっています。

c. 地域密着型（介護予防）サービス給付費の構成割合



地域密着型（介護予防）サービス給付費の構成割合は、認知症対応型共同生活介護が83.7%（H25）、53.8%（H28）で最も高い。  
 H28から、地域密着型通所介護サービスがスタートし、33.9%で認知症対応型共同生活介護に次ぐ高い割合となっています。

d. 施設サービス給付費の構成割合

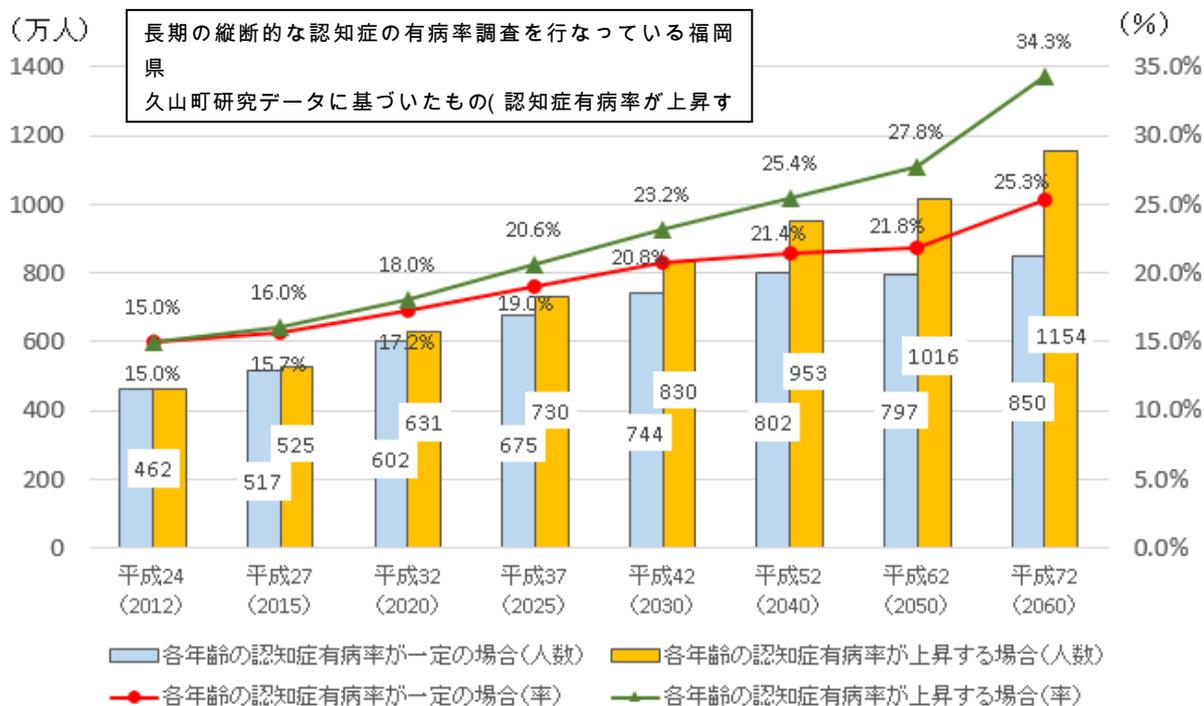


施設サービス給付費の構成割合は、介護老人保健施設が45.7%（H25）、48.6%（H28）と最も高く、次いで介護老人福祉施設、介護療養型医療施設となっています。

### 3. その他

#### ① 認知症の人の将来推計

##### a. 全国の推計



資料：「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」  
(平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業)

65歳以上の高齢者の認知症患者数の将来推計についてみると、平成24年は認知症患者数が462万人と、65歳以上の高齢者の7人に1人(有病率15%)であったが、平成37年には、約700万人、5人に1人になると見込まれている。

##### b. 徳島県の推計

	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)
徳島県	35,508人 16.7%	41,527人 17.6%	45,468人 18.4%	47,861人 19.5人

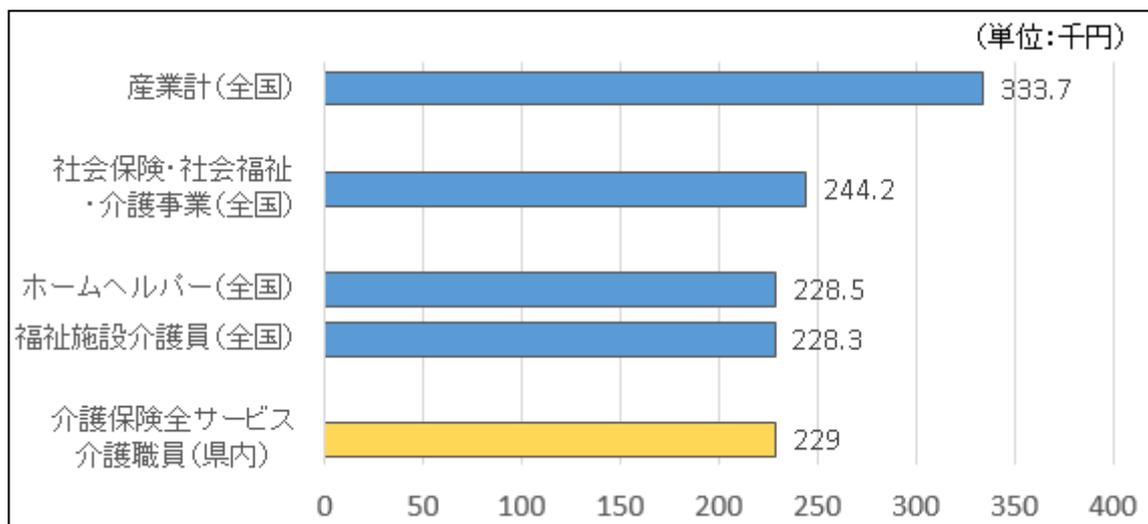
本県における平成37年における認知症の人は約4万8千人と推計され、65歳以上高齢者に占める割合は、約5人に1人と推計されています。

##### c. 鳴門市の状況

介護認定者のうち、日常生活自立度Ⅱ以上の占める割合は約54%(H25)であることから、認定者約3600人のうち約2000人が認知症の人と推計されます。また、直近の高齢者数に県が推計する有病率を乗じると約3400人となります。

## ② 介護職員の状況

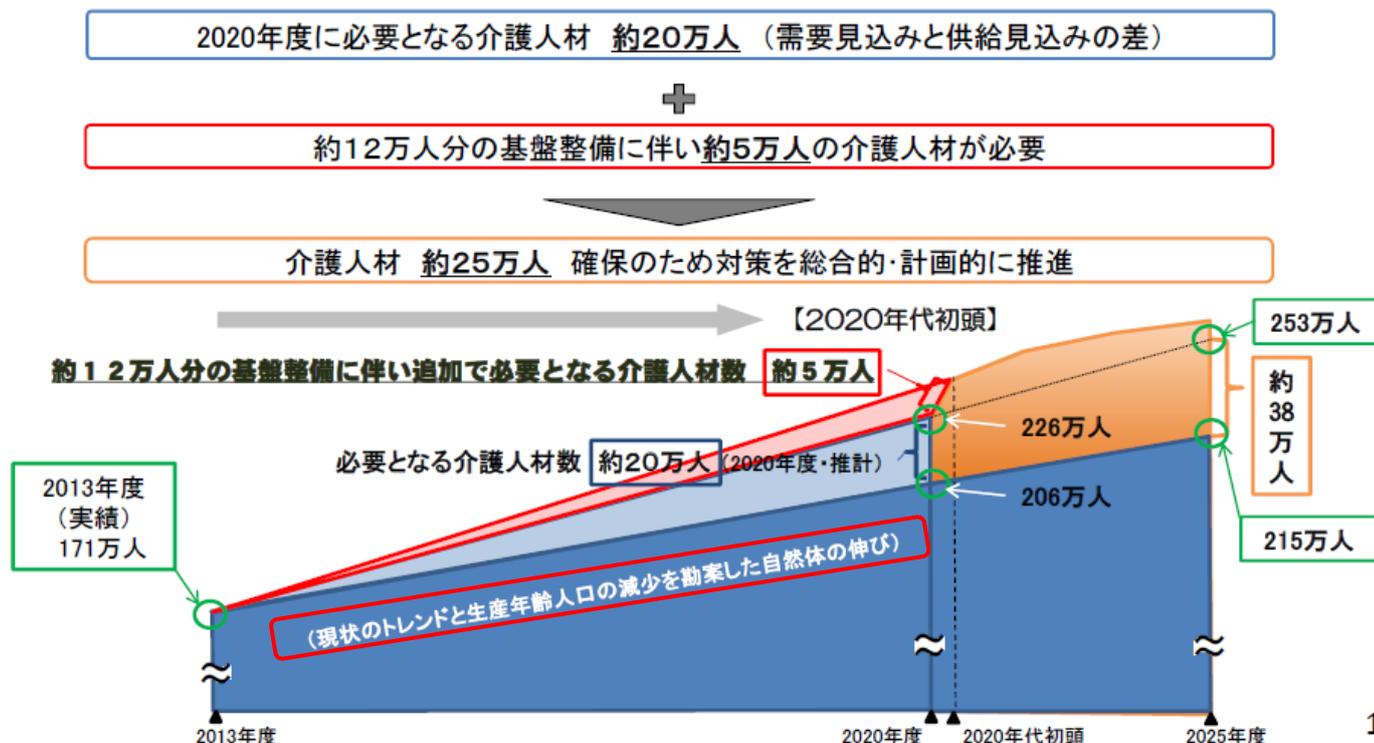
### a. 介護職員の賃金の状況



- ・ 全国は、厚生労働省「平成 28 年度賃金構造基本統計調査」に基づく数値
- ・ 県は、平成 27 年度「介護職員処遇改善加算の実績報告」に基づく数値
- 注) 賃金額については、年間賞与等も含め、月額換算したものの。

全国的に、介護事業の平均賃金の水準は、産業全体と比較して低く、なかでも福祉施設介護員やホームヘルパーの賃金はより低くなっています。

### b. 介護人材確保に向けた推計 ( 社会保障審議会介護保険部会 H28.9.7 提出資料 )

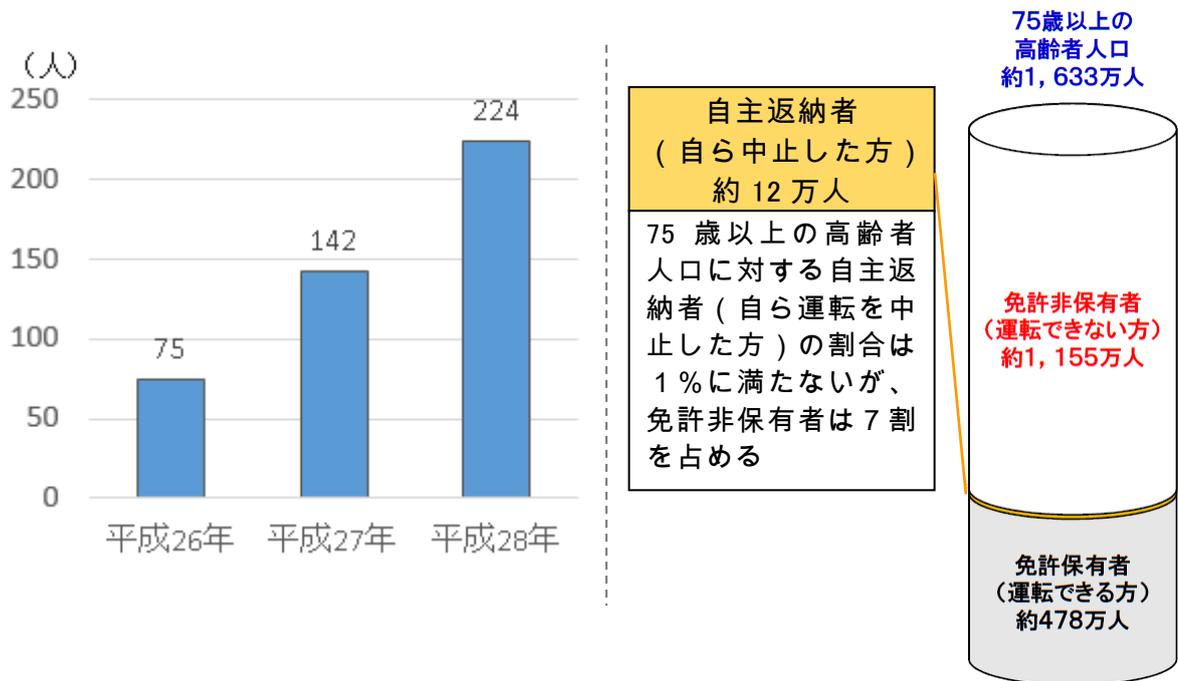


県が行なった推計では、平成 29 年度の充足率 (供給見込み / 需要見込み) を 98.3% (245 人不足)、平成 32 年度は 97.0% (444 人不足)、平成 37 年度は 91.7% (1,282 人不足) と見込んでいます。

### ③ 運転免許返納者数等の状況

( 鳴門署管内の状況中 )

( 全国の状況 H27 年中 )



高齢者による交通事故の増加や改正道路交通法の施行等により、運転免許返納者数が増加しています。自主返納者の平均年齢は 80 歳となっており、後期高齢者の増加に伴い、今後も増加していくと見込まれます。

#### ④ 地域福祉計画における主な困りごとに関する意見

### 地域福祉計画策定に係る地域座談会(市内13地域)のグループワークで出た「主な生活課題」

(全地域の座談会に出席した長寿介護課において作成)

#### ○移動手段・足の確保

- ・(買い物、通院、金融機関、趣味活動)
- ⇒ 公共交通機関の利便性を上げて
- ⇒ ドアtoドアの移動手段が欲しい
- ⇒ 免許返納したいができない

#### ○買い物・調理

- ・近所に店がなくて不便
- ・移動販売が来ない
- ・スーパーの惣菜や配食サービスの味が合わない
- ・品物を見て買物がしたいが行けない

#### ○生活上のその他の困りごと

- ・通院の付き添い
- ・墓参りや墓掃除
- ・大掃除や電球交換等(介護サービス外)
- ・ゴミ出し、布団干し
- ・介護保険サービスの認定が出ないけど

#### ○将来に対する不安

- ・病気になるたらどうしよう
- ・介護が必要になったらどうしよう
- ・1人暮らしになったら(させたら)どうしよう
- ・(漠然と)10年後どうしよう

#### ○家族の形

- ・子供たちの地域離れ、別居の増加(支援を受けられにくい)
- ・老介護(高齢者が高齢者を介護)
- ・ダブルケア(子育てと介護が重なる)
- ・認知介護(認知症の方同士で介護)
- ・子どもが結婚しない、戻ってくる
- ・農家の後継ぎがいない

#### ○高齢者等の見守り

- ・独居高齢者が増えている
- ・地域と関わりのない方の増加
- ・徘徊高齢者への対策
- ・見守りを拒否される方がいる

#### ○空き地・空き家の増加

- ・シャッター街の増加(地域の活力が)
- ・老朽化による安全上の問題
- ・治安上の問題
- ・空き地の除草

#### ○生活に必要な施設の減少

- ・身近な商店の減少
- ・医療機関が少ない
- ・銀行がない、郵便局が遠い

#### ○地域コミュニティの維持

- ・地域の美化
- ・地域の伝統行事の担い手不足
- ・地縁団体等の担い手がいらない(自治会・老人クラブ・民生委員・消防団等)
- ・休校や廃校で活動の拠点が減った
- ・新宅やマンション入居者との融合
- ・若者と高齢者の関わりがない

#### ○災害に関すること

- ・災害発生時の避難行動への支援
- ・備蓄や家具固定、平時の備え
- ・避難訓練参加や非難経路確認

#### ○その他

- ・ゴミ出しのマナーが悪い
- ・あいさつする人が少ない
- ・老人クラブや婦人会の世代とPTAの間の層の活動が少ない
- ・イノシシや猿の被害

S 地域福祉計画は、介護保険事業計画の上位計画にあたるもので、現在、併行して策定作業が進んでいるものです。